

松本 宜大 (MATSUMOTO Yoshihiro)

研究員 博士 (農学)

1993年 兵庫県宝塚市 生まれ
2018年 東京大学大学院 農学生命科学研究科 修士課程修了
2022年 東京大学大学院 農学生命科学研究科 博士課程修了
2022年 農研機構 農業情報研究センター AI研究推進室
2022年 農林水産省 農村振興局 防災課 防災情報班
2023年 農研機構 農村工学研究部門
農地基盤情報研究領域 農地整備グループ



研究者の横顔

〈農業土木の研究者を目指すまで〉

はじめまして、2023年度より農工研農地整備グループに配属になりました、松本宜大と申します。出身は兵庫県ですが、小学校5年生のときに埼玉県に引っ越したので、すっかり関東になじんでいます。今は農業土木の研究者として働いているわけですが、そもそもは農業土木とも研究とも縁遠い生活を送っていました。大学に入ったときは建築学科へ行こうと思っていたのですが、いざ学部を決める段階になって、農業土木という分野の存在を知り、食を支える土木というのは人間にとって重要で、やりがいがありそうだなと思い、農学部に進学しました。その後も、研究というもののイメージがつかず、大学は学部で卒業し、農水省で官僚として働こうと思っていました。なので、研究室を決める際も、「この研究室であれば色々なところに調査に行ける」と言われ、あまり深く考えずに農地工学の研究室に決めました。しかし、いざ研究を始めてみると、自分で考えた仮説を調査や実験で検証するというプロセスが面白く、研究者を目指そうと考えるようになりました。

〈研究のスタンスについて〉

大学では、灌漑にかかる電気代に関する研究(農地工学)や、水田転換畑の碎土不良な土壌における水移動に関する研究(土壌物理学)を行ってきました。その中で、現場との距離感というものに常に悩まされてきました。土壌物理学では、基礎的な研究が中心で、研究成果がすぐに現場で役に立つのかと言われれば難しいところです。一方で、農地工学は、現場で使える研究をすることが多いですが、理論化が難しく、事例研究になってしまうことが多い印象です。現場の役に立ちつつ科学的にも面白い研究、というのはなかなか難しいと感じています。ただ最近は、基礎的な研究と応用的な研究の両方を、それぞれ別々に行っていくのがよいのかなと考えています。農工研でも、現場に即した研究を行いつつも、基礎的な研究も忘れずに行っていきたいと思っています。

〈趣味について〉

鉄道で旅行するのが好きで、いわゆる「乗り鉄」です。これまでに日本の鉄道の99%に乗車してきており、残るは九州と沖縄だけになっています。ここまで来れば、ぜひ近いうちに達成したいと思っています。また、兵庫県生まれということもあり、阪神タイガース(プロ野球)のファンです。今年は18年ぶりにリーグ優勝を決めたということで、非常に楽しい1年でした。この原稿が出るころには日本一になっているのでは?と期待しています。それでは、今後ともよろしく願います。